

宮尾城(宮ノ尾城, 宮尾ノ城, 宮ノ城, 要害山城) (国特別史跡, 特別名勝)

(廿日市市宮島町) (厳島)

宮尾城（みやおじょう）は、広島県廿日市市宮島町（かつての安芸国佐西郡厳島）にあった日本の城。別名宮ノ尾城（みやのおじょう）とも呼ばれる。城を含む島全体が、国の特別史跡及び特別名勝に指定され、瀬戸内海国立公園の一部でもある。

沿革

厳島の戦いにあたって毛利元就が築いたとされることが多いが、実際はそれ以前から存在している。1554年5月、厳島を占領した毛利元就はこの城に番兵を置き、補修に着手。6月に陶晴賢軍が海から襲来したが、上陸を阻んだ。1555年（弘治元年）9月21日、厳島の戦いが起こり、毛利側が勝利。その後、宮尾城の処遇は不明である。

概要

厳島北西にある要害山と呼ばれる標高30mの丘を中心に築かれた連郭式平山城である。現在と違い、当時は城北部の山麓まで海が迫っており、三方が海に面し、水軍の運用も可能な城であった。そのため、援軍として熊谷信直を送り込むことができた。

城自体は決戦を前に急造された陣城のような城とされるが、脆く崩れやすい地盤を固めるために石垣も使用されている。また、築城にも人夫1000人を使って、1か月程度はかかっており、戦時急造の雑な城ではなかったと推測される。

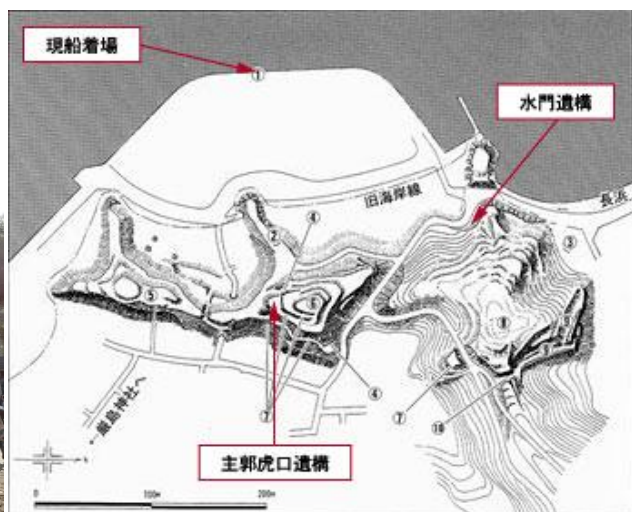
Wikipedia による



本丸



二の丸



「藤井戦国史」より転載